

2005 史学会第一〇三回大会プログラム

場所 東京大学(本郷)

二月一日(土)

公開シンポジウム 法文二号館一番大教室 午後一時

「一八世紀の秩序問題」

趣旨説明

報告 東アジアの一八世紀と「通商の時代」

市場・「啓蒙」・秩序——「日本」の場合——

マンチエスタ騒擾とジョージ一世をつないだフランス語文書

コメント

近藤 和彦
岩井 茂樹
渡辺 浩
近藤 和彦
羽田 直己
安村 直己

討論

総会 山上会館 午後五時半

懇親会 山上会館 午後六時 会費 三〇〇〇円

二月二三日(日)

部会

日本史部会

第一会場 (古代) 法文二号館一番大教室 研究発表 午前九時半

第二会場 (中世) 法文二号館三番大教室 「前近代における王権」 研究発表 午後一時

第三会場 (近世) 法文一号館二番教室 研究発表 午前九時半

第四会場 (近現代) 法文一号館三番教室 研究発表 午後一時

考古学部会 法文二号館二番大教室 シンポジウム「蝦夷地と琉球——考古学的・

文献史的比較研究の可能性を探る」 午前二〇時

東洋史部会 法文一号館一三番教室 研究発表 午前九時半

西洋史部会 法文一号館二五番教室 研究発表 午前二〇時

部会 プログラム

日本史部会

第一会場(古代) 法文二号館一番大教室
研究発表(午前九時三〇分〜一二時)

- 1 軍団と関
- 2 壬申の乱における戦略に関する考察
- 3 郡司読奏考
- 4 清和太上天皇期の王権構造
- 5 下達文書の形式変化とその行使形態——「下文」を例として——

日本史部会シンポジウム「前近代における王権」(午後一時〜五時)

主旨説明

- 1 古代国家の形成と王権
- 2 朝廷再建運動——朝廷・幕府体制成立史の視点——
- 3 近世王権論と天皇の自己認識

コメント

第二会場(中世) 法文二号館三番大教室

研究発表(午前九時〜一二時)

- 1 武家の狩猟と矢開の変化
- 2 得宗専制期における評定——寄合との関係を中心に——
- 3 代銭納の季節
- 4 中世後期における四府駕輿丁の展開
- 5 左近衛府駕輿丁猪熊座の出現をめぐって——
- 6 中世後期の貴族と芸能の家業——今様出歌をめぐる相論を中心に——
- 7 羽柴秀吉の中国・四国国分——その性格と位置付け——

第三会場(近世) 法文一号館二番教室
研究発表(午前九時三〇分〜一二時)

- 1 伊達家文書のなかの田沼意次——意次像の再検討——
- 2 東宮三卿について
- 3 レディ・ワシントン号について
- 4 天保期の幕領長崎
- 5 弘化、安政元年の海防・災害と社会不安

第四会場(近現代) 法文一号館三番教室
研究発表(午後一時〜五時)

- 1 知識人の神社参拝慣習の形成に関する一試論
- 2 憲兵史料から見た軍事演習と地域
- 3 日本陸軍の対中国情報収集工作——大正一四年の諜報武官会議を例として——
- 4 軍隊の「災害出動」制度の確立——「衛戍」の変化を手掛かりとして——
- 5 植民地朝鮮における司法権独立問題——裁判所構成法の適用を中心に——

考古学部会(法文二号館二番大教室 午前一一時〜午後三時二〇分)

シンポジウム

「蝦夷地と琉球——考古学的・文献史的比較研究の可能性を探る——」

報告
アイヌ史における文献史学と考古学の役割

1 古代蝦夷文化の形成と特質

2 琉球圏の形成をめぐって——考古学と文献史学の協力——

3 琉球史像の過去と現在——日本史と東洋史(中国史)の狭間から自立へ——

東洋史部会(法文一号館一・三番教室)

研究発表(午前九時三〇分〜一二時三〇分)

- 1 祖先祭祀よりみた殷王朝の支配秩序
- 2 春秋時代における新君認識
- 3 『春秋』『左伝』に見える「立」即位「葬」の検討から——
- 4 唐末五代の河東道北部における沙陀集団の内部構造について
- 5 「契苾通墓誌銘」の分析を中心として——
- 6 建文進士と永楽政権
- 7 琉球人か倭人か——一六世紀末から一七世紀初の中国沿岸における「琉球人像」——

研究発表(午後一時三〇分〜四時三〇分)

- 1 清朝の権門と塩商——イェヘリナラ氏と長蘆塩商安氏を例に——
- 2 近代湖南に於ける宗族の形成とその機能——曾國藩の一族を題材として——
- 3 一八世紀後半朝鮮における還上運営の性格——加分を手がかりにして——
- 4 西北建設政策の始動——南京国民政府における開発の問題——
- 5 一九三〇年代南インドにおける民族運動・非バラモン運動・共産主義
- 6 アイヌーに帰せられた四年代記の成立年代と執筆意図
- 7 コングラト朝ヒヴァ・ハン国史の再検討——その国家体制をめぐって——

西洋史部会(法文一号館二・五番教室)

研究発表(午前一一時〜一二時)

- 1 アテナイにおける公的碑文の出現
- 2 ガリアの河川水運商人——naviga組合に見る社会的紐帯の様相——
- 3 紀元千年前後におけるデンマーク王権の権力集積と在地有力者
- 4 研究発表(午後一時三〇分〜四時一〇分)
- 5 中世ヨーロッパにおける説教執筆の理論と実践
- 6 ブルゴーニュ期フランドルのシャテルニー行政組織
- 7 一四世紀末——一五世紀中葉ブルフセ・フレイエの会計簿より——
- 8 一五世紀イングランドにおけるジェントルウーマンの社会的結合
- 9 一八世紀パリにおける服飾品生産・流通と同業組合

- 角古畑 赤 小長師 塩中志吉田河 鈴渡 岩西水 川 豊安熊熊 今 李吉楊中平 濱戸横村藤 戸池西 児尹中 池古藤河大 大 渡中磐倉吉 野野下本永 一 俊 一 宏 史 史 孝 和 一郎 徳 成 真 季 慎 子 卓 信 行 淳 男 朗 爾 植 人 鋳 良 昇 炯 律 典 高 紀 剛 穂 有 貴 漢 克 行 湧 昭 奈 津 享 子 納 寛 輔 聡 透 滋 治 徹 宏 史